

愛知県立内海高等学校

地域とあゆむボランティア

高校生ボランティア・アワード2020

地域の未来を考えて活動する

内海高校のある南知多町は、きれいな砂浜と海が自慢の小さな町です。

内海高校は**全校生徒が168人**と、人数の少ない高校ですが、**今年度は108名の生徒がボランティア活動に参加**して、1人1人の意識が非常に高い学校です。地域のために、自分にできることは何かと考えて行動することができる素晴らしい生徒がそろっています。内海高校のあるこの地域の未来のためにできることはなにかを考えながら活動を続けています。

学校周辺の道路・施設の清掃活動



地域のためにできることを考えて、学校周辺の道路・施設の清掃活動を行っています。夏には道にはみ出した草を刈り、秋には落ち葉掃除などをします。また、通学のために利用させていただいている名鉄河和駅周辺の清掃も行いました。この活動は、**平成5年から28年間継続して**行われています。地域の方からは、一生懸命に道路を清掃している姿がさわやかで、見ていて気持ちがいいとお言葉をいただいています。



「だれかの役に立てるって幸せ」(2年 深田 心)

私はボランティアに参加して思ったことがあります。それは良いこと尽くめだなということです。考えてみても、悪いことが一つもありません。ボランティアに参加して、「おつかれさま」や「ありがとう」と言ってもらって、地域がきれいになっていって、自分も幸せで相手も幸せって素敵だなと思いました。正直なところ、最初は掃除なんてめんどくさいと思っていましたが、終わった後は参加してよかったと思ったし、次も参加したいなと思いました。何かの力になることはとても幸せなことです。どんなことでもいいです。ぜひみなさんも参加してみましょう！

「我らの愛する内海高校のために」(3年 浅野 京太郎)

ぼくは人の役に立てることをしたいと思っていました。なので、身近な人のために、小さなことから頑張っていこうと思いました。そこでこのボランティアが始まるのを知り、これはいい機会だと思い、参加することにしました。ボランティアの説明で、地域の方が頑張っている生徒の姿を見て「すごい！」と思ってもらえるように頑張りたいと思っていました。それを聞いて、自分がいいことを頑張れば周りの人たちも認めてくれるということを知りました。これからは色々なボランティアに参加してたくさんの人たちの役に立ちたいです。また、ボランティアだけでなく、普段から周りの人たちの役に立てるようにしていきたいです。

「ぼくにできること」(2年 羽場 彬)

「ボランティアとは自発的に他人、社会に奉仕する人または活動を指す。活動の基本理念は、公共性、自発性、先駆性である」とウィキペディアにありました。ぼくにそんなことができるのだろうか。何をしたらいいのだろうか。不安でいっぱいでした。ボランティアでは、内海海岸避難訓練での避難誘導の旗振りや、学校周辺の落ち葉掃除などをしました。ぼくにもできることがありました。何か難しいことをやらなければならないと思っていました。ぼくのできることがもっと増えたらいいなと思います。

「心もきれいに」(2年 須田 奈津芽)

地域と歩むボランティアにはたくさんの生徒が参加します。内海高校はとても自然が多いので、落ち葉や枝が学校に来た人の通る道にたくさん落ちているので、みんなで分担してきれいにします。毎日通っている学校の周辺を自分たちの手できれいにすると、心もきれいになる気がします。ボランティアが終わり、帰るときに校舎から正門に続く道を歩くときれいにして良かったなと思います。これからもみんなの手で学校をきれいにしたいと思います。

「ボランティアって悪くないな」(3年 吉田 秀哉)

私はこのボランティアに参加してから自分の認識が変わりました。それはボランティアという活動の認識です。今までボランティアって無償で身を削りながら社会奉仕するものだと思っていましたが、ボランティアをやって日を追うごとに、人のためでもあり自分のためにもなるんだなって感じました。町をきれいにすれば景観が変わり、心なしか人の笑顔も自然に増える気がします。人の笑顔が見れば自分はうれしいのでこのボランティアをやってよかったと思います。



今年度の108名のメンバーです。頑張るぞ！

内海高校の歴史を受け継ぐ

内海高校は今年で**創立81年**を迎える伝統のある学校です。本校の**ボランティア活動は昭和50年から始まり**、その内容を変えながら、**45年間続いて**います。先輩方が築き上げた歴史を大切に、社会のために新たな活動にもチャレンジを続けていきたいと考えています。1人1人でできることは小さいかもしれませんが、それぞれができることを考えて実践していくことで、よりよい地域になるように活動を続けていきたいです。

ボランティア活動・昭和50年よりはじまる。



新聞記事は昭和55年7月30日中日新聞のもの。上の写真は施設の子を育む本校生徒。

愛知県立内海高等学校 創立五十周年記念誌より

特別養護老人ホーム「大地の丘」にて奉仕活動



内海高校の近隣にある、社会福祉法人 あぐりす実の会 特別養護老人ホーム「大地の丘」に訪問して、清掃をお手伝いさせていただいたり、入居者の方とお話したり、昔遊びをしたりします。この活動は、**平成18年から14年間継続して**行われています。施設の方からは、入居者の方にとって、内海高校の生徒と対話するのはとても良い刺激になるから、いつも内海高校の生徒が来るのを楽しみにしているとお言葉をいただいています。



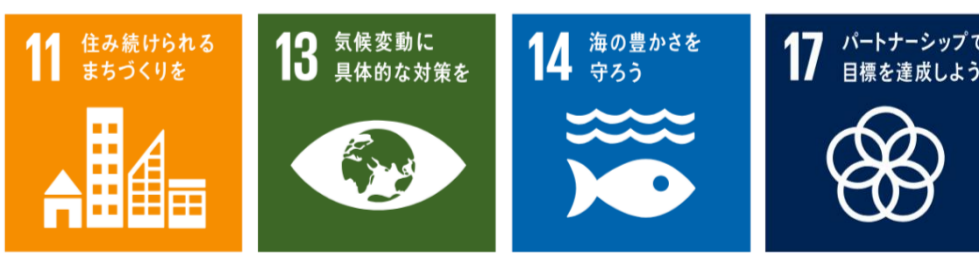
「昔の人の命の分まで」(2年 藤川 夕暢)

私の夢は、介護福祉士になる事です。少しでも夢に近づけたらいいなという気持ちでボランティアに参加しました。大地の丘という施設でたくさんのお年寄りの方とお話をしました。ある1人の女性が戦争のお話をしてくださいました。昔の日本は、本当に苦しくて怖くてたくさんの方が死んでいったよ。今のあなたたちはとても良い時代に生まれてきたんだから、今を大事に大切に生きていくなだよ。亡くなった人の分もたくさん長生きするんだよ、と。そのお話が心に響いて、今を大事にして生きていこうと思ったし、絶対に夢を叶えようと思いました。ボランティアに参加してよかったなと思いました。

「今の自分にできること」(3年 山本 結愛)

「誰かのために努力する事で人は変わる。」そう感じたのは、ボランティアの回数を何度か重ねた時でした。いつも助けてもらってばかりの私が人の力になれるのだろうか。ボランティアを始めたばかりのときのそんな不安は消え、与えていただいた役目をしっかりと果たすことができるようになっていきました。「ありがとう」の一言がとても嬉しくて、次も頑張ろうという気持ちにさせてくれました。ボランティア活動を通して、自分がその都度できる事を精一杯やる事、そして人のために努力する事の大切さと楽しさを学びました。今後も人のために努力できるような活動をして、社会に貢献できる人になっていきたいです。

地域の団体・施設に貢献する 内海海岸避難訓練において奉仕活動

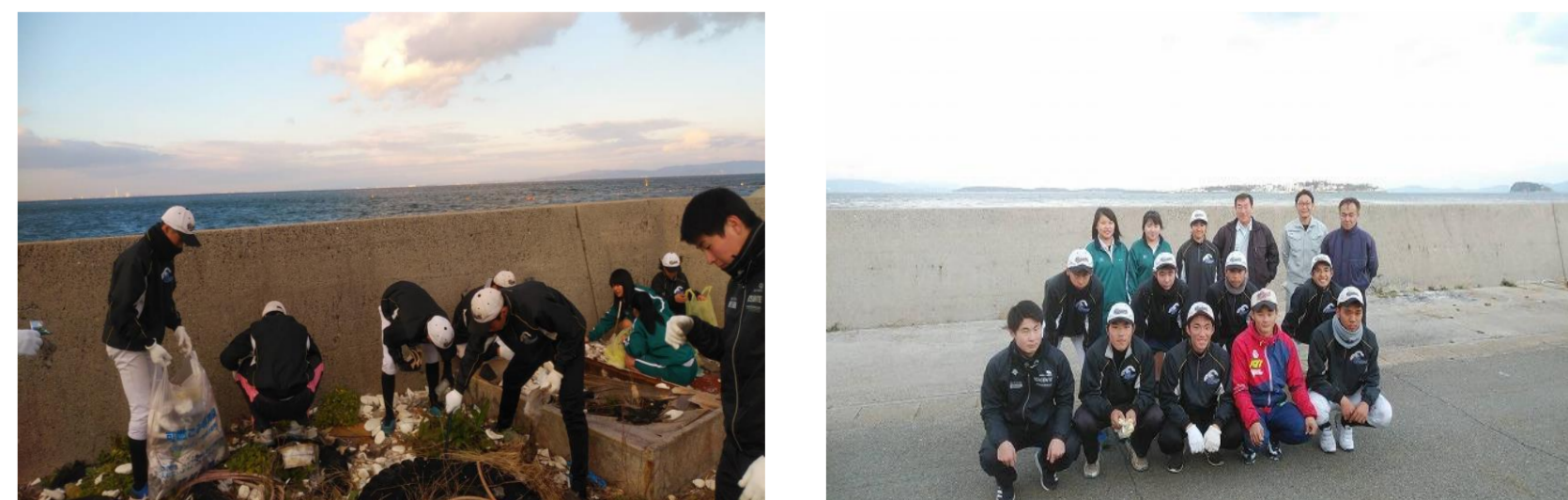


海の日には、内海海岸避難訓練のボランティアスタッフとして地域との連携を図っています。



師崎漁港の清掃活動

野球部を中心としたメンバーが、日ごろお世話になっている恩返しとして、地元の師崎漁港の清掃活動を行いました。



南知多町親子キャッチボール教室

南知多町が野球の普及活動として行っているキャッチボール教室のお手伝いを野球部員が行いました。子供が投げても安全なボールを使用して、2歳児から小学生までがキャッチボールを楽しみました。



その他の取り組み

- ・美浜町障害児ふれあい運動会にスタッフとして参加
- ・地元警察と連携して「防犯・防災キャンペーン」に参加
- ・南知多町の「砂時計製作体験教室」にスタッフとして参加

新たな試み

来年度から、南知多子ども会の引率のボランティアと内海海水浴場の清掃のボランティアを行う予定です。清掃活動においては集めたゴミの分析も行いたいと考えています。また、今年度はコロナウイルスの影響で大地の丘に訪問できなくなりましたので、施設の利用者の方に楽しんでいただけるような動画を作成する予定です。地域の未来のためにできることを実践していきたいです。